

公表

事業所における自己評価総括表 児発

○事業所名	みらいずジュニア美郷		
○保護者評価実施期間	2026年1月19日		～ 2026年1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 6名	(回答者数)	1名
○従業者評価実施期間	2026年1月19日		～ 2026年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	何をメインに支援するのか、一人一人の特性や現状を理解し支援にあたるようMTGを行っていることでPDCAサイクルを徹底している。	MTGは朝と午後には必ず行っている。支援する際に何を目的に現場に入るのか確認している。また試してみたが改善したほうが良い支援や、このまま続けていきたい支援についても必ず振り返りを行っている。	・送迎等で時間がない時はMTGが疎かになってしまうことがあったので必ず時間を取る。 ・成長が見られてもそのままにせず次のステップを考えていく。
2	活動プログラムが固定化しないよう工夫し、発達の早い未就学児に合わせた支援をしている。	特性に合ったプログラムの設定と、できるようになってもそのまま続けていくものと新しく内容を変えるものを見分けを意識している。	・子どもにとって何が苦手が何が得意か個人の判断にならないよう、みんながわかる表を作成。 ・84の動作についてできているかチェック表を作成し支援に役立てていく。 ・運動模擬の実施
3	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有する。	自分で気づくことを意識していくこと、他のスタッフの支援を真似する、自分の成功体験を伝える。	相談の場という意識でできなかったことを失敗ととらえない環境を作ることで、言いやすい雰囲気づくりと不安なく支援できる現場づくりを行う。 ・話やすい雰囲気づくりを意識する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ベアトレが実施できず保護者とのコミュニケーション不足や支援の質の向上に向けた話し合いができていない。	・ベアトレに関して、前回実施時の参加者がいたが開催する機会を作れなかった。	・ベアトレ研修への参加や、委員会に参加しベアトレを開催できる環境を作る。 ・成功事例発表会などの機会を設け保護者や地域に発信する機会を作る。
2	家族との連携の機会が少なく、支援の要望やみらいずへの意見などを話す機会がない。	・送迎の機会がないお子さんがおり保護者と話す機会が面談しかない。	・平日利用のお子さんは送迎ができないので、家族と話す機会がない為、何かあった場合は面談等を開催し、こちらから話す機会を作る。 ・成功事例発表会などの機会を設け保護者や地域に発信する機会を作る。
3	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有できていない。	①ヒヤリハットの書式はないが、支援をしていて気になったこととの共有以外に何が危険だったかを話す機会がない。 ヒヤリハットの意識を持つことで指導の目線が変わる。 ②ヒヤリハット作成は社会人1年目に自分も経験にあるが「やってしまった」「ミスしてしまった」という意識があり自身のなさに繋がってしまう危険性もあるので配慮が必要。	①MTGで子供たち同士のトラブルや施設内での環境の危険な箇所について話し合う機会を作る。共有書式やPC内でフォルダを作成し共有する機会があってもよいのではないかと。 ②共有するのであれば事業所単位での発信にする。個人名をなるべく控えることなど… ミスではない、共有して子供たちやみらいずの為にという意識を持つ。 ・未就学児ならではの危険性や特性を把握する機会を作る。 ・なぜヒヤリハットを作成しなければいけないのか、全スタッフに周知する機会を作る。